

Σ 委員会 炉 定 数 グ ル ー プ

第2回 FP chain 作成グループ議事録

1. 日 時 昭和42年5月16日 午後1時30分～4時30分
2. 場 所 原電第2会議室
3. 出席者 富岡(原研), 飯島・亀井(以上NAIG), 小林(MAPI), 大沢(日立), 永山(原電)

4. 議 事

○ 前回議事録の確認

FP chain作成作業計画案の再検討。

“Chain追跡用コードの作成とこれに伴う作業内容”中の“断面積は1群(Maxwellian分布)を使用する”について次のようなコメントが出された。

「1群(2,200m/s)の値を使用し,これを最終的に grouping に使用するのは問題だろう。RIを含めて初めから2群で作業を実施してはどうか」尚討論の結果次の結論が得られた。

FP cross section 作成グループの断面積作成が非常に長期になるのでこのグループの結果を取り入れることが出来ないが,出来るだけRIを含めた2群で行なう方向を取ることにする。具体的方法については永山,富岡,坂田委員が立案する。

○ FP chainの定式化とcode化の問題

大沢(日立)委員により定式化と解析解についてチェックされ問題ないとのことが報告された。尚今回出席者にも出来れば再チェックしてもらうことを依規した。

○ Dataの収集

Dataの収集は, ORNL-2127, WAPD-TM-333を書き込んだ

Tableを配布し、これに出来るだけ多くに書き込んでもらうことにした。

期限は7月末日迄。

Dataの種類は、decay constant, (n- γ)cross section, yield.

R I.

- 作業人員不足のため住友、富士にも依頼しては如何との発言があり近日中相談することにした。

○ 次回予定

昭和42年6月2日11時30分～

場 所 未定

議 題

- FP-chainの定式化とcode化
- R Iの問題について
- その他

以 上